

伝統の美。日本一の山車の実物を展示

水郷佐原山車会館



DASHI KAIKAN
FLOATAI
武
命 伎 那 伊

「江戸優り」文化息づく 祭の殿堂

江戸の古くから、利根川の舟運で栄えた北総の小江戸「佐原」。江戸優りと呼ばれる華々しい独自の文化を開花させ、その文化の集大成である「佐原の大祭」と「佐原囃子」は重要無形民俗文化財として国の指定を受けています。

水郷佐原山車会館では、佐原の大祭で曳き廻される絢爛豪華な山車が常時2台展示されており、いつでも祭りの熱気と興奮・本物の迫力を体験することができます。



1階

山車展示室・ビデオシアター

◆山車展示室

絢爛豪華な山車を間近で見ることができます。重厚で表情豊かな彫刻をじっくりとご覧ください。半てんと提灯を身につけて、お祭り気分での記念写真をどうぞ。

◆ビデオシアター

3面パノラマ大画面で佐原の大祭の迫力と熱気を体感できます。



▼山車の絵はがきなどおみやげにどうぞ



▲絢爛豪華な山車を身近で見ることができます

◀3面パノラマ画面で佐原の大祭を体験できます

日本一の大人形

祭を彩る

佐原の大祭で曳き廻される山車の最上部「大天井」と呼ばれる部分には、大きな飾り物が据えられています。鯉や鷹の糞細工もありますが、多くは神話や歴史上の人物を題材にした大人形で、身の丈5mに及び、山車全体で9m近くにもなります。

その大きさはもちろん、鼠屋福田万吉、三代目原舟月、古川長延、三代目安本たたる人形師の手による作品であることが「日本一の大人形」最大の特徴です。

古くは、現在の飾り物のように各町内の飾り物が決まったものではなく、手作りのハリボテ人形や、榎などの草木を飾り物としていました。しかし、享保18年(1733)に閩戸町が佐原の有力家であった伊能権之丞家から夜着を借り受けて、猿田彦(大天狗)の飾り物を出したところ、これが大評判となり、それ以来閩戸町は飾り物を猿田彦にしたという記録が残されています。往時の猿田彦の大人形は格別に大きなもので、佐原と利根川を挟んで対岸のまち・潮来からもその姿を見ることができたと伝えられています。その後、各町内も固定の飾り物を出すようになり、祭りの発展の過程で人形師の手による飾り物が据えられるようになったと考えられます。

佐原の大祭の歴史の変遷を表す貴重な文化財として、3階企画展示室に猿田彦の人形が展示されています。

いざなぎのみこと
伊弉那岐尊(田宿)



たか
鷹(仁井宿)



夏祭り(山車10台)

にんとくてんのう
仁徳天皇(南横宿)



みなもとのよしつね
源義経(上宿)



おののどうふう
小野道風(新橋本)



しょうざんごう
小楠公(橋本正行)(下分)



じんむてんのう
神武天皇(仲川岸)



むすびやすきののみこと
建速素戔嗚尊(下川岸)



かんけいほせろうたのとも
鎮西八郎為朝(上中宿)



秋祭り(山車15台)

展示室

佐原の大祭に欠かせない佐原囃子の楽器(篠笛、太鼓、鉦)や、後藤茂右衛門、石川三之助、小松光重、金子光晴などの名工と呼ばれた彫刻師により手掛けられた関東彫りの山車彫刻が展示されています。また、普段の祭り見物では見ることができない山車よりも高い位置からの眺めを楽しむことができます。



◀山車にかかせない佐原囃子に使う太鼓・鉦、彫刻についてなど展示・説明しています

企画展示室

佐原の大祭のシンボル・日本一の大人形が展示されており、魂のこもった人形の気配を感じることができます。大人形と見つめ合えば、なにが語りかけてくるかもしれません。



▶▶間近で見る山車人形は迫力があります



※現在曳き回しなし

国指定 重要無形民俗文化財

夏祭り
山車
10台

秋祭り
山車
14台

江戸優り 佐原の大祭

『佐原の大祭』は、7月9日から17日までの連続した金・土・日曜日に行われる八坂神社祇園祭と、10月第2土曜日を中日とする3日間に行われる諏訪神社秋祭りの2つのお祭りの総称をいいます。

佐原には25台の山車(だし)があり、夏祭りに10台、秋祭りには14台の山車がそれぞれ曳き廻されます。

○佐原・祭りの歴史

江戸の昔、水運で栄えた佐原。

「お江戸見たけりゃ佐原へござれ 佐原本町 江戸優り」と唄われた小江戸佐原はその財力を背景に佐原の大祭をはじめ、独自の文化が発展しました。

また、江戸との深い経済・文化の交流から「江戸」を強く意識し、江戸に優る文化の醸成を目標に掲げ、約300年にわたりその伝統は脈々と現在に受け継がれています。



○佐原囃子

日本三大囃子

佐原囃子独特の情緒的な響きと楽曲の多さは他の囃子には類例がなく、佐原の山車行事とともに国の重要無形民俗文化財にも指定されています。

館内に流れる佐原囃子に耳を傾けて、じっくりと「違い」を感じてみてください。

○山車の曲曳き

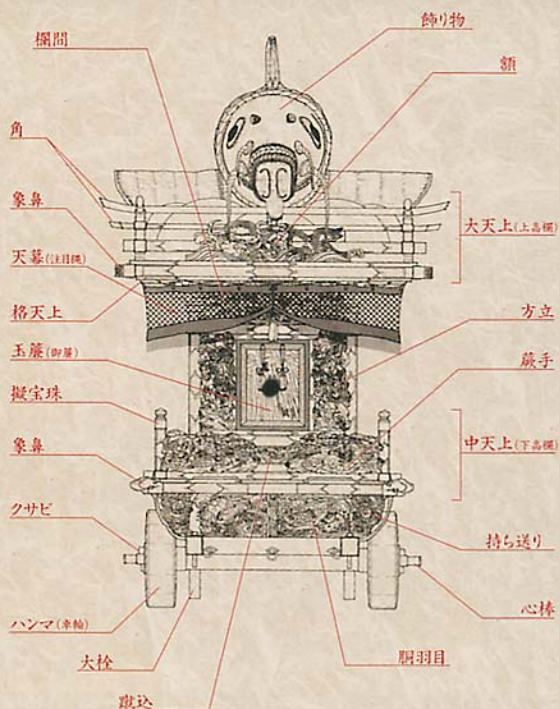
「のの字廻し」

山車走行を一度停止させてから行う方法と、山車走行を止めずに行う「まわしこみ」があります。廻転演技中はゆっくり回しかつ山車の停止は恥とされています。

また、その他にも「そろばん曳き」や「こばん廻し」などがあります。



山だし車の構造



佐原の大祭で曳き廻される山車は4輪2層の曳山で、

いわゆる「江戸型山車」とは異なり

独自に発展を遂げた形態です。

大きな特徴は、山車最上部に身の丈5mにおよぶ

日本最大級の大人形を飾り付ける点と、

山車の周囲に装飾された重厚な山車彫刻にあり、

現在ではこのような作品をつくれる職人はいないと言われ

貴重な文化遺産となっています。



水郷佐原山車会館

〒287-0003 千葉県香取市佐原イ 3368 (八坂神社境内)

Tel.0478-52-4104

URL <http://katorishi.com/>

佐原の大祭

◆ 八坂神社の祇園祭・夏祭り ◆

【7月9日から17日までの連続した金・土・日曜日】

◆ 諏訪神社の秋祭り ◆

【10月第2土曜日を中日とする金・土・日曜日】

入館料

●大人 一般：400円 団体：350円

●小・中学生 一般：200円 団体：150円

※団体は15名以上が対象となります。

開館時間

◆通年 / 9:00~16:30 ◆祇園祭り中 / 9:00~20:30

休館日

◆月曜日 (祝日の場合は翌日)

◆年末年始

交通のご案内

●JR利用 (JR成田線)

▶東京~佐原 / 特急約1時間30分 ▶千葉~佐原 / 普通約1時間

●車利用

▶東京方面から→東関東自動車道・佐原香取IC~県道佐原山田線~佐原

